

都市再生整備計画(第6回変更)

でしま どうぎ
出島・銅座地区

ながさき ながさきし
長崎県 長崎市

平成25年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	長崎県	市町村名	長崎市	地区名	出島・銅座地区	面積	252 ha
計画期間	平成	20	年度	～	平成	24	年度
				交付期間	平成	20	年度
					～	平成	24
							年度

目標

大目標: 中心市街地にふさわしい、市民及び観光客に対して快適性と安全性に優れた都市空間の創出

目標1	歩行者空間の環境改善整備による安全性・快適性の向上
目標2	新たな歩行者滞留空間の整備による賑わい空間の創出
目標3	歩行者動線の整備による新たな観光拠点の整備

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

- ・事業地区は、古くからの市街地であるまちなかであり、国指定史跡である出島和蘭商館跡及び新地中華街、眼鏡橋など昔ながらの街なみが残る中島川周辺、町家の街並みが残る中通り・寺町地区、長崎街道の始まりである新大工地区など、歴史・文化・観光の魅力が連続する地区であるとともに本市最大の商業集積地である浜町を包含し、市民や観光客で最も賑わいのある地区となっている。
- ・また、地区の北側には陸の玄関口である長崎駅、南側には松が枝国際観光船ふ頭、国の重要文化財を有するグラバー園等を配し、中心市街地であるまちなかとともに観光、商業、歴史・文化的な面での連携が期待されている重要な地区である。
- ・車優先の社会が進む中で、この地区の観光・商業・歴史・文化的資産を活かし、歩いて楽しい賑わいのあるまちにするには、歩行者空間の安全性・快適性、点在する歴史・文化・観光の拠点をつなげる、動線の強化や賑わい空間、憩いのスペースの創出が求められている。
- ・普通河川銅座川の周辺においては、長年にわたり、当該河川を大きく占用し、暗渠化していた駐車場が撤去されたが、駐車場の基礎が護岸に残存し河川景観の大きな阻害要因となっている。
- ・また、当該河川周囲の道路は、観光客や買物客が非常に多いにも関わらず歩車道分離がなされておらず、交通事故発生の危険性が高い状況にある。
- ・駐車場撤去を契機に近隣住民の間に「まちづくり」に対する機運が高まり、撤去後の整備のあり方について行政と住民の間で協議を進め、歩行者空間の整備、河川護岸の修景整備、近隣の主要観光施設との連絡強化等を中心とした整備構想を策定している。

課題

- ・当該地区は、本市の中で最も賑わいがあり、景観上も重要な地域である。特に銅座川周辺や中島川周辺・中通り・寺町地区は、日常的に非常に多くの市民、観光客の目に触れる場所である。観光を活性化の主軸とする本市においては、銅座川周辺・中通り・寺町地区の修景整備やまち並みを活かしたまち歩き環境を高めることが緊急な課題となっている。
- ・銅座川周辺は、本市で大きなイベントが開催される時には、主会場に近いこともあり多くの人であふれるが、周辺道路は歩車道の分離がないため交通事故の危険性が高い。安全で快適な歩行者空間の整備が緊急な課題となっている。
- ・整備により、当該河川周辺は市民、観光客の新たな回遊拠点となることが期待される。そのため、当該地付近の主要道路の修景整備もあわせて実施する必要がある。
- ・また、中島川周辺・中通り・寺町地区は、景観形成地区に指定され、観光まち歩きのルートが多く存在することから、まち並みを活かしながら、交通ルールを工夫することなどにより、歩行者が安全で楽しく歩ける空間をつくる必要がある。
- ・大浦石橋電停は、日常的に多くの地元住民により利用されているほか、観光客がグラバー園を訪れるための乗降場として多く利用されている。そのため、観光の動線上の拠点として、観光客や地元住民の憩いのスペースとしての整備の必要性が高い場所である。
- ・近年、町家の老朽化が問題となっており、民間の更新による解体・建替が進む中、和風のまちなみを残す町家の保全・伝承を行うことが重要となっている。
- ・中通り・寺町地区の憩いの空間の創出や、地区に近接する交通の拠点である長崎駅、観光資源であるグラバー園等との回遊性向上等、長崎市民・観光客が快適で安全に利用できる施設整備が必要である。

将来ビジョン(中長期)

- ・長崎市総合計画においては、道路、公園、河川などの基盤施設の整備や、街並み景観の形成、歩行者空間の整備改善による「魅力ある中心市街地の再生」が基本施策として位置づけられている。
- ・長崎市都市計画マスタープランにおいては、「都心部におけるにぎわいと活力のある都市づくり」という基本目標を掲げ、主な市街地整備方針として「良好な水辺環境の創出を図るとともに、これと連携した歩道整備などにより、歩行者の回遊性に配慮した潤いのある水と緑のネットワーク形成を図る」としている。また、都市環境の整備方針として、「歴史的・文化的遺産を活かし、観光資源としての活用を図ることから、これらの施設間やゾーン間の有機的連携を強化する」としている。
- ・まちなか再生の行動に関する基本方針においては、当街地区にあたる中島川・寺町・丸山エリアにおいて、「歩行者が安全で楽しく歩ける空間をつくる」、東山手・南山手エリアにおいて「山手の魅力を活かし、国内外の人々との交流を図る」というまちづくりの方針が掲げられている。

目標を定量化する指標

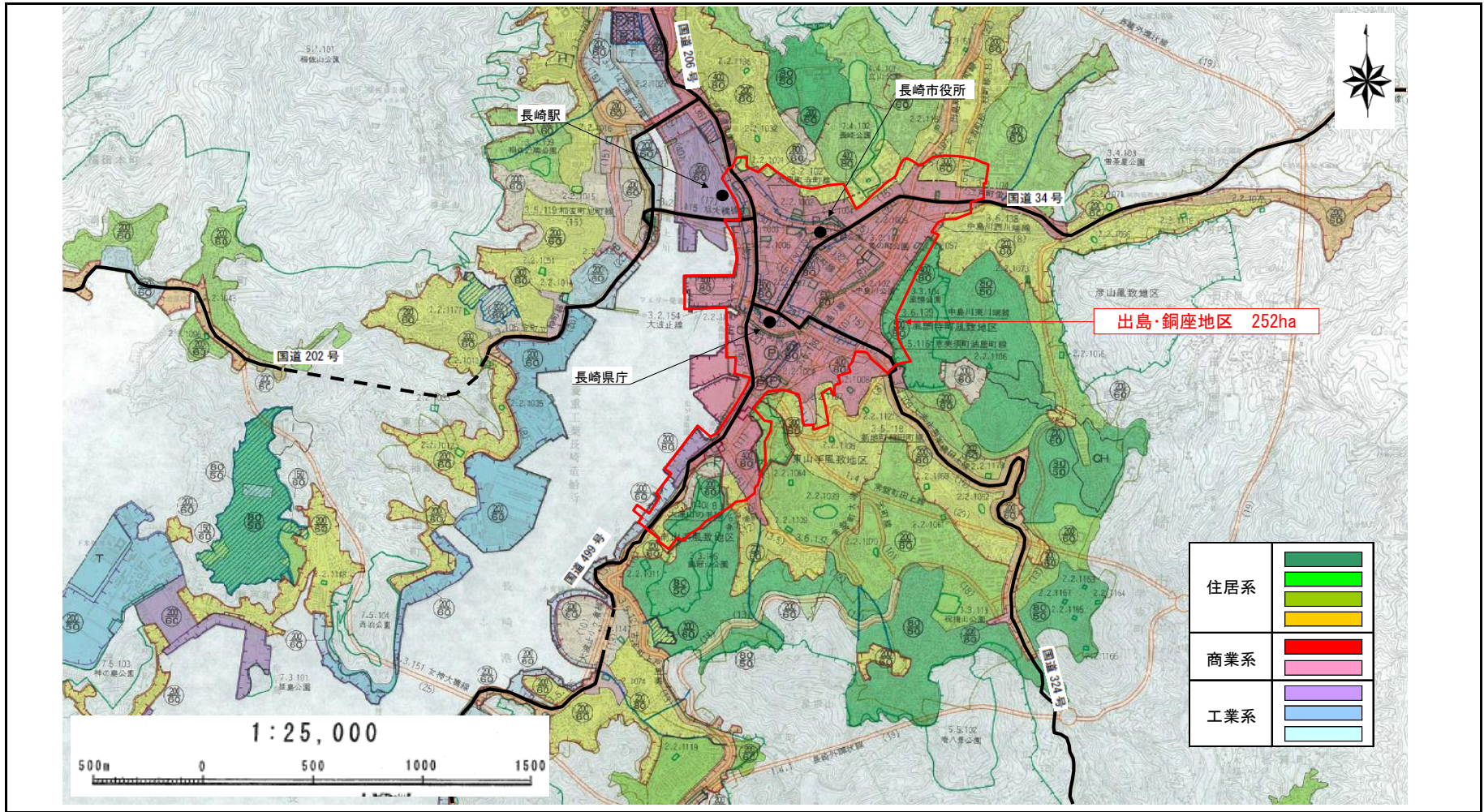
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
河川周辺の景観に対する満足度	%	地区内住民へのアンケート調査の結果	河川周辺の整備による景観の向上	21.0%	H19	50.0%	H24
河川周辺の道路空間に対する満足度	%	〃	歩道新設、舗装整備による交通安全性と道路機能の向上	18.5%	H19	50.0%	H24
地域の集客力に対する満足度	%	〃	歩行者滞留空間の整備による地域の集客力の向上	15.3%	H19	50.0%	H24
新地橋・中通り・新大工の歩行者交通量	人	歩行者交通量調査(3地点合計 日曜:10～18時)の結果	整備による市民、観光客の回遊数の増加	16,466人	H18	17,100人	H24
(仮)上長崎地区ふれあいセンター利用者数	人/年	一年におけるふれあいセンターの利用者数	歩行者滞留空間の整備による地域の賑わいの向上	—	—	26,000人	H24

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>歩行者空間の環境改善整備による安全性・快適性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状で歩車道分離のない市道について、河川側へ張出歩道を整備することにより、歩行者の安全性と快適性を向上させ、河川護岸の整備とあわせて、中心市街地における良好な水辺の回遊空間の創出を図る。 ・歩行者と自動車を分離することにより、荷捌きやタクシー乗降など、自動車利用の場合のサービス機能の向上を図ることもできる。 	<p>道路(市道出島町籠町1号線、市道銅座町3号線、市道銅座町新地町1号線、市道伊勢町大浦町線、市道浜町油屋町1号線)・・・基幹事業 地域創造支援事業(河川護岸修景整備)・・・提案事業</p>
<p>新たな歩行者滞留空間の整備による賑わい空間の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当事業地区は、常時、多数の市民、観光客が往来し、特に、銅座川の周辺は、長崎くんちやランタンフェスティバルなどの主要な観光イベント開催時には、市民、観光客が集中する重要な拠点である。しかし、当該河川周辺は公園や広場など憩いの空間に乏しく、市街地の状況から用地の確保も困難な状況にある。そのため、河川上に広場を整備し、これを多目的なオープンスペースとすることにより、地区内に賑わいの空間を創出する。 ・歴史・文化・観光の拠点が連続する沿線において、地域の拠点となる施設や休憩広場を整備し、歩行者滞留空間としての魅力を向上させる。 	<p>地域生活基盤施設((仮)銅座川河川広場)・・・基幹事業 高次都市施設(地域交流センター)・・・基幹事業・提案事業 地域創造支援事業(休憩広場整備)・・・提案事業</p>
<p>歩行者動線の整備による新たな観光拠点の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該地区は、出島(国指定史跡)や唐人屋敷(旧居留地)など、長崎の特色ある歴史を物語る地物を包含している。こうした地区の特徴を活かして、既存の道路を整備し、トレイル等を充実させることにより、新たな観光拠点の創出を図る。 	<p>道路(市道出島町籠町1号線、市道銅座町3号線、市道銅座町新地町1号線、市道伊勢町大浦町線)・・・基幹事業 地域生活基盤施設((仮)銅座川河川広場)・・・基幹事業 高質空間形成施設(カラー舗装)・・・基幹事業 地域創造支援事業(回遊性向上事業)・・・提案事業</p>
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・銅座川の周辺は、河川の開渠化を契機に住民のまちづくりに対する関心が高まっているところであり、長崎市の中心商業地と主要観光地の要に位置していることもあわせて、当地区が上述の整備により新たな市民、観光客の回遊拠点となることにより、周辺住民の積極的にまちづくりに取り組む機運がさらに高まるものと期待できる。こうした機運の高まりをとらえ、行政側より積極的に働きかけを行い、官・民協働による地域振興、観光振興に資するハード・ソフト両面にわたる事業の立ち上げを推進していきたい。 	

都市再生整備計画の区域

出島・銅座地区(長崎県長崎市)	面積	252ha	区域	元船町、樺島町、万才町、賑町、築町、江戸町、万屋町、浜町、油屋町、銅座町、籠町、新地町、出島町、館内町、中新町、西小島1丁目、伊良林1丁目、寺町、麴屋町、八幡町、伊勢町、新大工町、桜馬場1丁目、諏訪町、桶屋町、古町、今博多町、大井手町、出来大工町、馬町、勝山町、栄町、魚の町、桜町、興善町、古川町、東古川町、銀屋町、船大工町、本石灰町、鍛冶屋町、夫婦川町、片淵1丁目、下西山町、西坂町、大黒町、筑後町、中町、恵比寿町、五島町、玉園町、上町、八百屋町、炉粕町、上西山町、常磐町、大浦町、東山手町、下町、大浦東町、松が枝町、相生町、上田町、南山手町、小菅根町、浪の平町
-----------------	----	-------	----	--



出島・銅座地区(長崎県長崎市) 整備方針概要図

目標	中心市街地にふさわしい、市民及び観光客に対して快適性と安全性に優れた都市空間の創出	代表的な指標	河川周辺の景観に対する満足度 (%)	21.00%	(19年度)	→	50.00%	(24年度)
			河川周辺の道路空間に対する満足度 (%)	18.50%	(19年度)	→	50.00%	(24年度)
			地域の集客力に対する満足度 (%)	15.30%	(19年度)	→	50.00%	(24年度)
			新地橋・中通り・新大工の歩行者交通量 (人)	16,466人	(18年度)	→	17,100人	(24年度)
			(仮)上長崎地区ふれあいセンター利用者 (人/年)	-	-	→	26,000人	(24年度)

